

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
ピアノレパートリー I Piano repertory I		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(保育士養成課程選択必修)	児童フィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
音楽表現Ⅰ 音楽表現Ⅱ ピアノ演奏法Ⅰ ピアノ演奏法Ⅱ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
教職課程(幼稚園教諭二種)、保育士資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名		研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス
岡島忍のぶ 門澤一穂子 藤野理恵子 中沢光恵 西尾幸子		本館3階 講義棟1階	月・水・木・金	授業中に指示します
授業の概要				
子どもに対する音楽の必要性と影響力はとても大きいものであり、子どもが音楽に親しみ、うたを歌ったり楽器を演奏することの楽しさを味わえるかどうかは、保育者の感性と音楽能力に係わってくる。この授業では、保育現場で必要な基礎的なピアノ技術の習得と幼児曲の歌唱法や伴奏法の習得を図る。特に教育実習(6月)までの授業では、各自が実習前から提示された課題曲について集中的な指導で対応し、それ以外の授業では、ピアノ技術と表現力の向上を目指して、教本を使用した指導と弾き歌いの実践をする。				
授業の目標				
①音楽に対する関心を高め、音楽的な表現活動に取り組む姿勢を身につけることができるようにする。 ②簡単なコードネームを覚えて、簡単なコード(ベースライン即興)を活用し、幼児曲を伴奏することができるようにする。 ③教育実習の際には、課題曲や日常のうたや季節のうた(6月のうた)を子どもたちの前で弾くことができるようにする。 ④教本を使用してピアノ技術の向上を目指し、各楽曲を演奏することができるようにする。				
授業の方法				
ピアノ技術の習熟度別のクラス編成をし、担当教員による個人レッスンと幼児曲の歌唱を伴った弾き歌いのグループレッスンを併用して行う。個人レッスンの授業内容は各学生の能力に応じた指導を行うこととし、以下には、標準的な授業計画を示す。				
学習の成果(学習成果)				
①子どもたちの遊びを表現活動に発展させるために、積極的に子どもたちと関わる姿勢を身につけることができる。 ②コードネームを活用して、表現活動に必要な難易度の高い曲でも簡単な伴奏を用いて伴奏することができる。 ③実習先からの課題曲と各自が習得した幼児曲の伴奏や弾き歌いを、保育現場で実践することができる。 ④楽曲の構成、正確な音程やリズム、速度、強弱を理解し、ピアノ技術の習得と音楽的に表現することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	全体オリエンテーション：授業概要、評価方法の説明、受講上の注意等を説明 担当者別：各自の教材の選定と課題			
第2回目	幼児のための日常の歌(おはよう・おべんとう・おかえり等)の習熟度チェック			
第3回目	実習先の課題曲を用いて 発声および呼吸法① コードネームを効率的に活かした簡易伴奏法①			
第4回目	実習先の課題曲を用いて 発声および呼吸法② コードネームを効率的に活かした簡易伴奏法②			
第5回目	実習先の課題曲を用いて 歌唱指導① 弾き歌いの実践①			
第6回目	実習先の課題曲を用いて 歌唱指導② 弾き歌いの実践②			

第7回目	実習に向けた課題曲の最終チェック	
第8回目	ブルグミュラー25の練習曲(アラバスク〜狩り)程度①	
第9回目	ブルグミュラー25の練習曲(アラバスク〜狩り)程度②	
第10回目	ブルグミュラー25の練習曲(別れ〜貴婦人の乗馬)程度①	
第11回目	ブルグミュラー25の練習曲(別れ〜貴婦人の乗馬)程度②	
第12回目	グループ発表曲の指導(自由曲)①	
第13回目	グループ発表曲の指導(自由曲)②	
第14回目	グループ発表と講評 幼児曲：弾き歌いの実践(自由曲)①	
第15回目	幼児曲：弾き歌いの実践(自由曲)②	
成績評価の方法と基準		
評価の領域		割合
評価の基準		
授業参加態度	30%	毎回、与えられた課題を練習して授業に臨んでいる。また、授業内でのレッスンによる理解度についても評価する。
レポート		
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容(態度含む)	60%	担当教員全員の前で1曲演奏し、曲の難易度と表現力で採点する。各担当教員が全ての学生の演奏を採点し、その平均点評価とする。
その他	10%	曲の進度による評価をする。
教科書と参考図書		
テキスト：ブルグミュラー25の練習曲、ソナチネ、ソナタ(全音楽譜出版社)、その他(実習先からの課題曲や幼児曲)の楽譜		
履修上の留意点・ルール		
使用教室(MRⅠ、MRⅡ、レッスン室)では、飲食持ち込み禁止とする。毎回、各学生の進度に適した曲が課題となり、次回の授業でその曲の個人レッスンを受ける。短い時間でも毎日鍵盤に触れ、将来、保育現場で子どもたちに音楽の楽しさを伝えられるように努力してほしい。		